

2025年3月
(前期比季節調整値版)

第179回 中小企業景況調査報告書 (2025年1-3月期) 〈製造業編〉

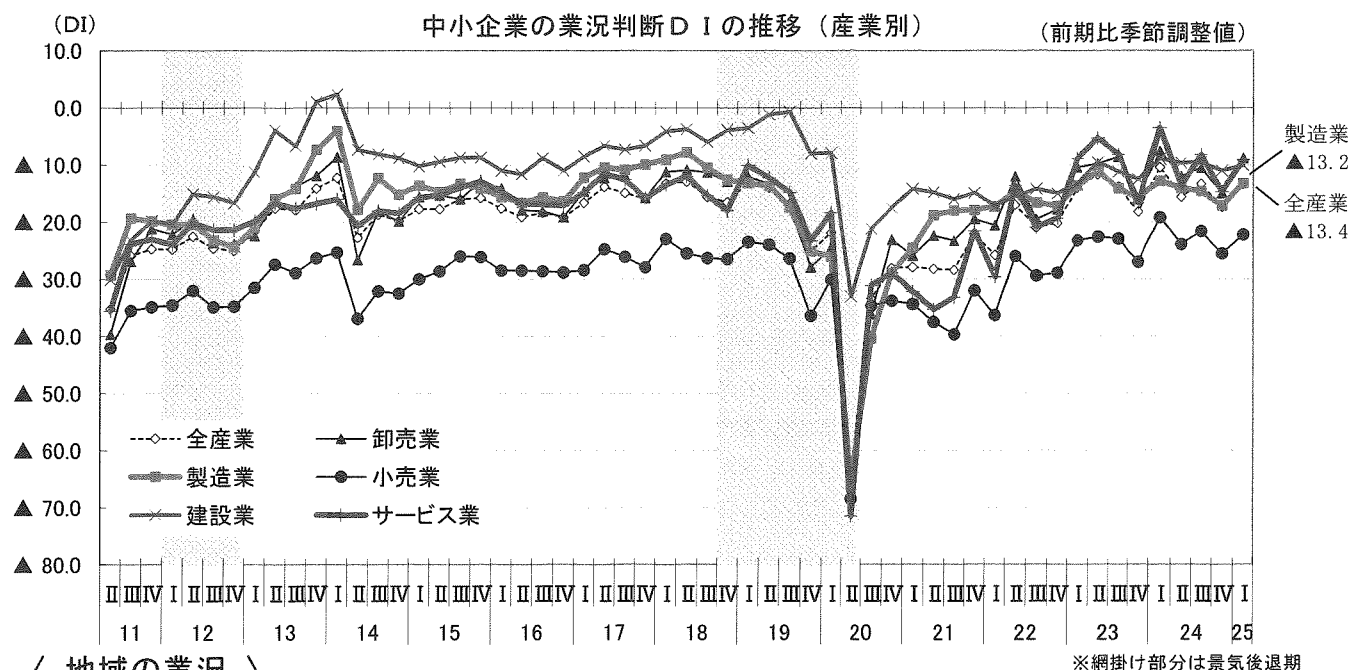
※DIとは…

「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
E-mail: chosa@smrj.go.jp
https://www.smrj.go.jp/research_case/survey/index.html

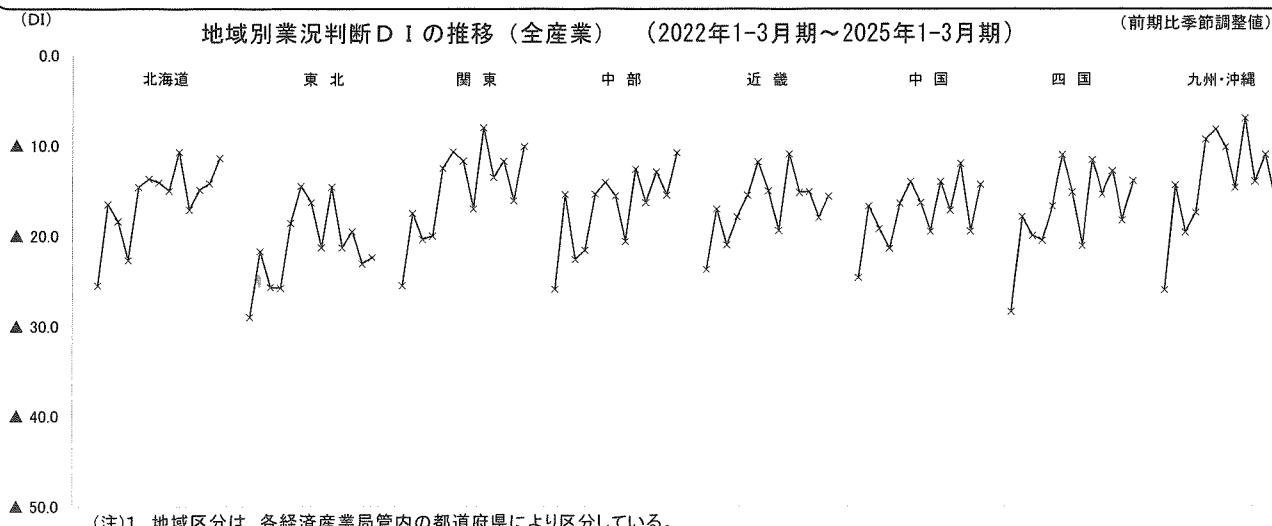
中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに上昇した。

前期と比べた全産業の業況判断DIは、2期ぶりに上昇した。(▲17.4→▲13.4)



〈地域の業況〉

関東、中国、中部、四国、九州・沖縄、北海道、近畿、東北のすべての地域でマイナス幅が縮小した。



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。

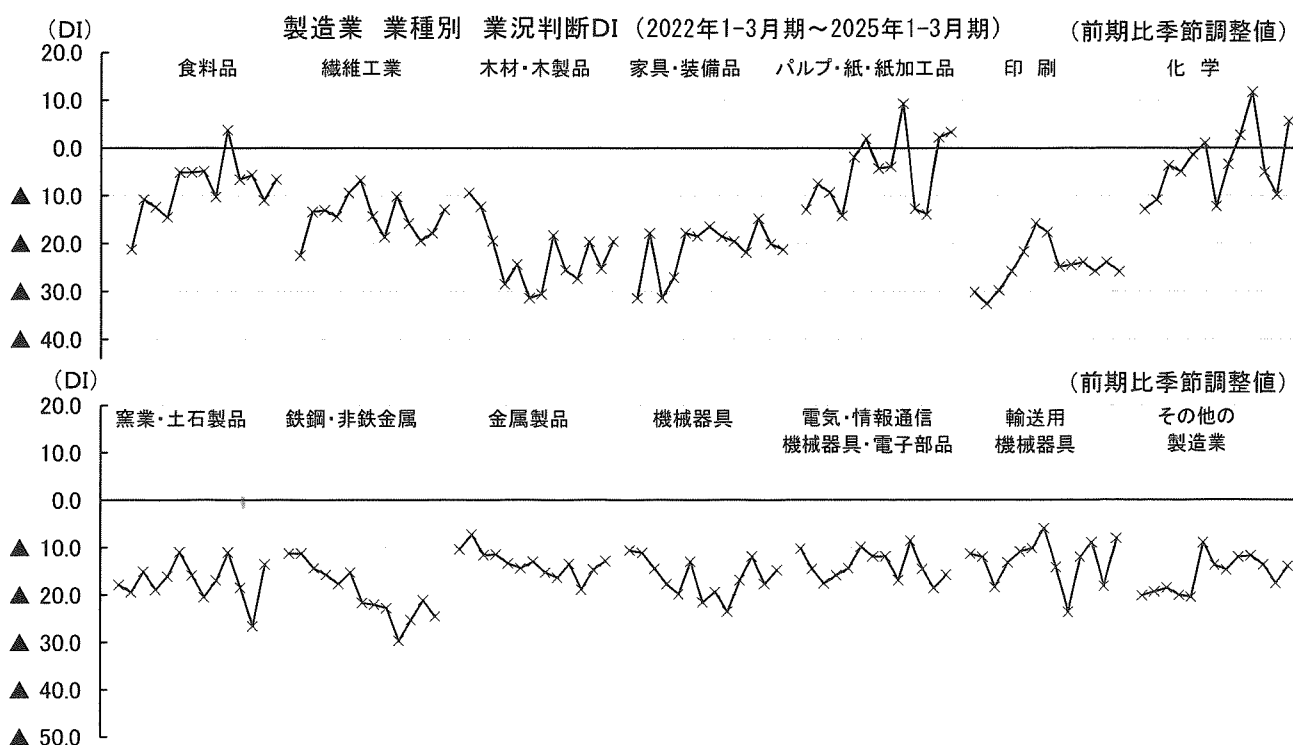
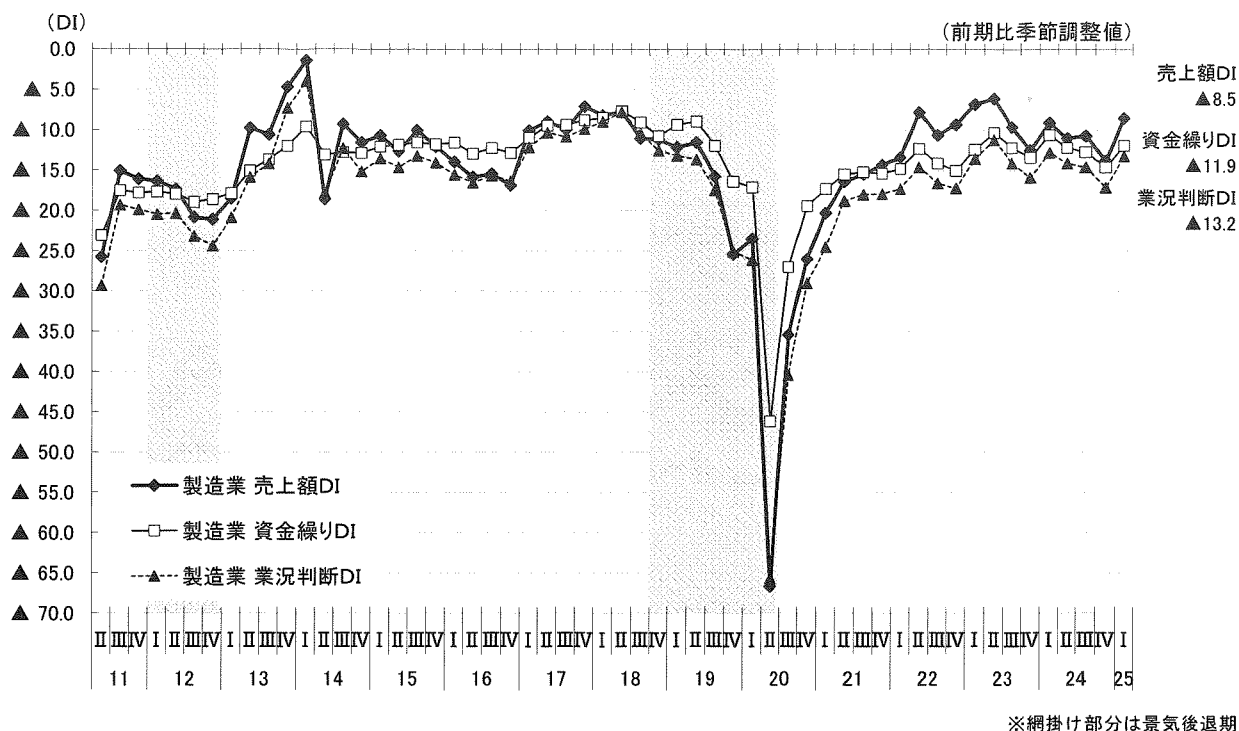
3. 業況判断DI＝前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

1. 製造業の動向

製造業の業況判断DIは、▲13.2（前期▲17.1、前期差3.9ポイント増）と4期ぶりにマイナス幅が縮小した。売上額DIは、▲8.5（前期差5.3ポイント増）と2期ぶりにマイナス幅が縮小し、資金繰りDIは、▲11.9（前期差2.7ポイント増）と4期ぶりにマイナス幅が縮小した。

業況判断DIを14業種別に見ると、パルプ・紙・紙加工品で3.3（前期差1.1ポイント増）と2期連続してプラス圏内となった。また、化学で5.6（前期差15.4ポイント増）とマイナスからプラスに転じ、窯業・土石製品で▲13.6（前期差13.0ポイント増）、輸送用機械器具で▲8.1（前期差10.1ポイント増）など10業種でマイナス幅が縮小した。

一方、鉄鋼・非鉄金属で▲24.6（前期差3.4ポイント減）、印刷で▲25.9（前期差2.0ポイント減）、家具・装備品で▲21.3（前期差1.2ポイント減）など3業種でマイナス幅が拡大した。



2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で19.3%（前期差2.1ポイント減）と減少した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2025年1-3月期	19.0	14.3	14.4	13.2	16.2	15.1	30.9	19.0	28.0	18.7	23.3	29.9	32.0	14.9	19.3
2024年10-12月期	22.6	17.6	15.7	14.3	22.1	17.1	25.0	18.7	28.9	22.5	24.7	27.1	34.3	16.5	21.4
2024年7-9月期	22.3	18.4	12.6	13.9	22.9	18.5	26.8	20.3	24.8	25.5	24.4	21.5	36.2	18.4	21.7
2024年4-6月期	23.3	16.6	17.6	15.7	18.8	16.9	27.1	19.5	22.1	24.4	21.7	27.4	30.6	16.2	21.1
2024年1-3月期	21.6	13.0	12.6	16.7	16.9	15.5	28.9	21.6	27.3	22.8	23.2	22.9	28.4	15.0	20.1

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「原材料価格の上昇」が1位にあげられており、「需要の停滞」が2位、「従業員の確保難」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (1-3月期)	原材料価格の上昇 (30.2%)	需要の停滞 (18.3%)	従業員の確保難 (9.3%)	生産設備の不足・老朽化 (9.2%)	人件費の増加 (7.4%)
前期 (10-12月期)	原材料価格の上昇 (29.3%)	需要の停滞 (18.4%)	従業員の確保難 (9.8%)	生産設備の不足・老朽化 (8.8%)	人件費の増加 (8.2%)

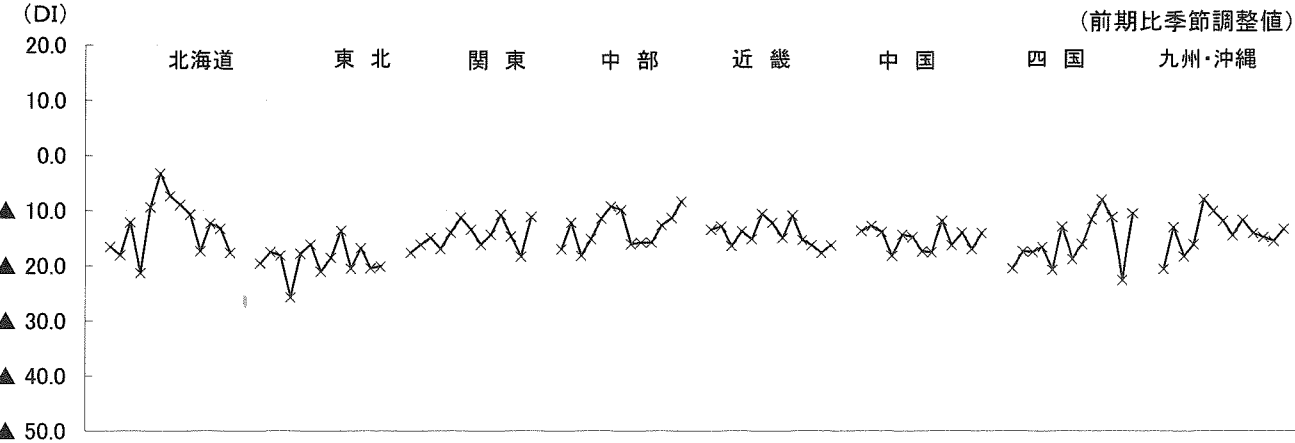
4. 製造業の地域別業況判断D I

地域別に見ると、四国、関東、中部、中国、九州・沖縄、近畿でマイナス幅が縮小し、北海道でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断D Iの推移

製造業

（2022年1-3月期～2025年1-3月期の動き）

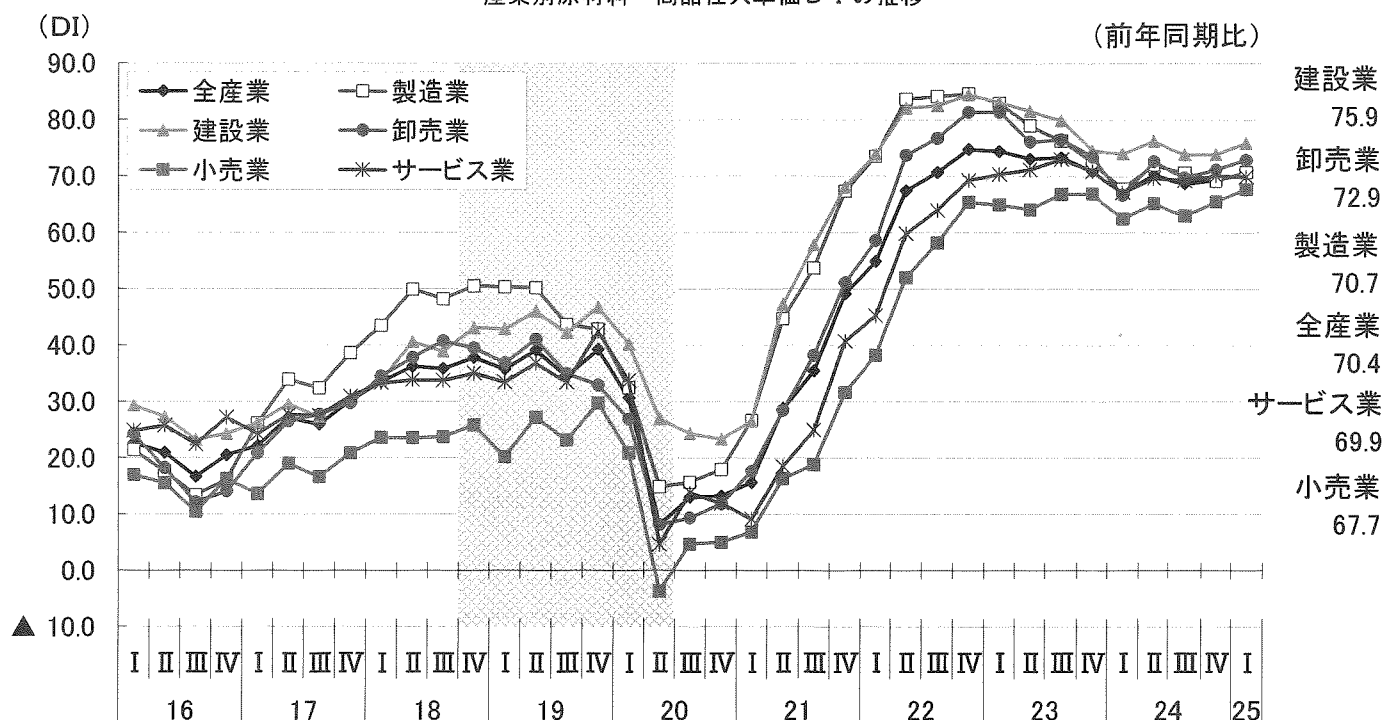


（注）1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄の合計。
3. 業況判断DI＝前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

5. 製造業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、70.7（前期69.2、前期差1.5ポイント増）と3期ぶりに上昇した。

産業別原材料・商品仕入単価D Iの推移



【調査対象企業のコメント】

- ・ ナメシ料金や取扱商品の単価を徹底的に見直し、改定した。得意先確保がカギとなってくる。大変苦しい状況だが耐えるしかない。[道南・道央 その他の製造業]
- ・ 全体的な景況感の良い様に感じるが、繊維業界を取り巻く環境は日々大きく変化し、コロナ禍又、コロナ禍前よりも悪化している様に感じる。色々な原因があると思われるが、変化に対応しなければならないと感じている。[山形 繊維工業]
- ・ 仕事の引き合いは多くなっています。しかし受注単価金額は安定しない。また、職人や技術者の人手不足は恒常的です。仕事の確保、人の確保を常に考えて工夫しています。[神奈川 家具・装備品]
- ・ 野菜価格の高騰、ガソリン代の高騰、賃上げにより原価が上がって利益が少ない。地域の高齢化が進み、顧客減少で売り上げも厳しいです。[岐阜 食料品]
- ・ 主力原材料の銅をはじめ、調達価格が上昇しており、利益を圧迫している。さらに金利も上昇しており、一刻も早く売値に転嫁しなければならないと思うようにはいかない。[兵庫 鉄鋼・非鉄金属]
- ・ ここ1～2年、工作機械は自動車関連、半導体製造装置はメモリーの設備投資が低調であり、業況は悪い状態で推移している。[鳥取 機械器具]
- ・ 春は生の薬物（よもぎ、すぎな、どくだみ等）の入荷数量が減少しそうである。採取者の高齢化と減少によるものである。当社の経営課題は原材料確保であるが、人材不足等のため対応できる体制になっていない。[徳島 化学]
- ・ 今期は、積雪により仕事ができない日が多く残念であった。雪が降らなければ、前年同期よりも売上が増加したと思われる。[熊本 窯業・土石製品]

【調査要領】

- (1) 調査時点：2025年3月1日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,758のうち有効回答数17,654（有効回答率94.1%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,329を集計したもの。）